

## 教材 No.012 相談しなくても大丈夫？

### <関連する教科等>

- ・ 体育：保健（不安や悩みへの対処）
- ・ 道徳：個性の伸長 / 正義、誠実 / 家族愛、家庭生活の充実
- ・ 特別活動
- ・ SOS の出し方に関する教育 等

### <教材制作の意図（授業のねらい）>

2017 年に改定された自殺総合対策大綱では、「つらいときや苦しいときには助けを求めてもよいということ

を学ぶ教育（SOS の出し方に関する教育）」を推進することが必要だと記されている。文部科学省（2018）も、関連した取り組みが十分に行われているとは言い難いと指摘した上で、「SOS の出し方に関する教育」を計画的に実施するよう学校に求めている。つらい状況が訪れた時には「一人で抱え込まず誰かに助けを求めよう」「早めに相談をすることで問題は深刻化しづらくなる」ということを日常の様々な場面で子どもたちに伝えていくことが重要である。

しかし、大人がいくら「相談をしよう」と呼びかけても、子どもたちには様々な思いがあるはずである。相談することが大事だと分かっていたとしても、「そう簡単に相談できない」という思いを抱くこともあるだろう。親や信頼できる人に、心配をかけたくないという思いもあるだろう。指導の工夫として、「相談をしよう」と一方的に伝えるだけでなく、子どもの相談しづらい気持ちや相談をためらってしまう具体的な場면을教材として描くことが重要である。そして「そんなとき、どうしたらいいだろう？」とリアリティのある話し合いができるようにしたい。

本教材では、容姿をからかわれる主人公が一度は勇気をふりしぼって親に「相談しよう」としてみたものの、タイミングを逸する中で「やっぱり大丈夫」と思い直してしまう心理を描いている。主人公はどうして「相談しなくても大丈夫」と思い、相談することを止めてしまったのだろうか。「相談しなくても大丈夫」と思い込んでしまう主人公の心理についてじっくりと想像をすることをおして、最終的に、子どもたちに「自分の気持ちを誰かに伝えてもいいんだ」「悩みを相談してもいいんだ」と思えるようになってもらいたい。

- ・ 厚生労働省（2017）「自殺総合対策大綱～誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して～」
- ・ 文部科学省（2018）「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議（平成 30 年度）（第 3 回）配布資料「自殺予防教育と SOS の出し方に関する教育の整理表」

### <話し合いのポイント>

子どもたちの意見について、共感的に聞いたり、発言の意図をていねいに確認したり、それぞれの考えの違いについてつっこんだりして見てほしいです。

その際、次のような点についておさえておくと、やりとりが深まると思われます。

- ◇ チカは本当に「大丈夫」だと思っているのだろうか。
- ◇ 一度は勇気を出して「相談しよう」と思ったのに、どうして「やっぱり大丈夫」と思ってしまうのだろうか。

- ◇ チカは、容姿へのからかいを受けていた。そのことが相談をしづらかった要因だろうか。また、容姿の悩みを異性（今回は先生）に相談しづらいということはあるだろうか。
- ◇ チカの悩みを知ったら、チカの母はどのような思いをもつだろうか。
- ◇ チカは人前では気丈にふるまっている。弱い自分を人に見せられないという思いに共感できるだろうか。

## <授業プラン>

活動内容	補足・留意点
<p>■導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>今日学習するテーマについて、想像をふくらませる。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 悩みや不安を抱えたときには、どうしたらよいでしょうか→誰かに相談する、自分なら〇〇に相談する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業者のスタイルによって、導入の仕方は様々だと思われる。導入の話をしせず、すぐに教材の視聴に入っても構わない。</li> </ul>
<p>■マンガ教材の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>「相談しなくても大丈夫」を視聴する。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 視聴後、小グループで感想を話し合う。何名かに発表をしてもらう。</li> <li>➢ 内容が伝わりづらかったようであれば、チカがどんなことに困っているかていねいに確認をする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感想をざっくばらんに話し合ったり発表したりすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくりたい。</li> </ul>
<p>■マンガ教材の問題点について考える①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>このクラスでは、悩みを抱えたときに自分は誰かに相談できるという人が(たくさん)いました。しかし、チカは誰にも相談できませんでした。これから、チカの悩みに寄り添って考えていきたいと思います。</u></li> <li>・ <u>チカはどういう思いから「相談しよう」と思ったのだろうか？</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 母を信頼していた。もう限界だった。等</li> </ul> </li> <li>・ <u>チカはなぜ「相談しなくても大丈夫」だと思ったのだろうか？</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 母が好きだからこそ迷惑をかけたくない。がんばって勇気を出したけどタイミングが悪かった。落ち込んでいる状態なのでこれ以上勇気はだせなかった。しばらくだした勇気がしぼんでしまった。強い自分でいたかった。やっぱり先生には言いづらい。容姿のいじりだから言いづらい。等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの子どもたちが、素朴には「誰かに相談するとよい」と思うはずである。一方で、チカは相談ができなかったということをていねいに分析していきたい。</li> <li>・ 授業者のスタイルによって、様々な話し合いの仕方を採用して構わない。ペアで話してから全体で共有する、まずはノートに書かせる、思考ツールを活用する、等。</li> <li>・ できるだけ、一人一人がたくさん話すことができ、たくさん意見を聞き合えるとよい。問題に対して、様々な見方・考え方がることが知れるとよい。</li> </ul>
<p>■マンガ教材の問題点について考える②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>相談することの難しさが見えてきましたが、お話は途中で、チカは苦しいままになっています。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に発言させる、下記のような選択肢を用いて挙手・人数をかぞえる、等。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>あなたがチカなら、このあとどうしますか？</u></li> <li>➤ 誰かに相談をする。このままやりすごす。等</li> <li>• <u>問題をこのままにしていたら、どうなってしまうだろうか？ 何かできることはないだろうか？</u></li> </ul>	<p>例) A 相談する B 我慢する C その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 選択に、その選択をした自分の価値観が表れているはずである。そのことを確認できるとよい。</li> <li>• 「<u>チカの友人だったら、チカために何ができるでしょうか？</u>」など、子どもに応じて発問を変えてもよい。</li> </ul>
<p>■自分たちの問題として考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>ここまでマンガの問題について考えてきました。もしかしたら、こうした問題が現実に関わったりクラスの中で起こってしまうことがあるかもしれません。</u></li> <li>• <u>こうした問題が起こらないようにするために、自分やクラスでできること・気をつけたいことはあるでしょうか？(起こってしまったときに、何ができるでしょうか)</u></li> <li>➤ 相談することは大事だと心にとめておく。日頃から小さなことでも相談するようにする。困っている人がいたら助ける。声をかけあえるクラスになる。容姿などをいじるのをやめる。等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様な意見を歓迎するが、いじめに類する行為を肯定するような意見(いじめられる方が悪い、いじめられても仕方ない等)に対しては、思いを受け止めつつ、その行為の問題性について適切に理解をしてもらうよう留意する。(「傷つく人が少しでもいなくなるように、何ができるか知恵を出し合いたい」という思いを伝えていきたい)</li> </ul>
<p>■ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>今日の授業のふりかえりをする。</u></li> <li>• <u>これからの学校生活や、友達とのコミュニケーションに今日学んだことを活かしてください。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ノートに書く、何名かには発表をさせる等、ふだんの授業スタイルに応じたふりかえりの仕方で構わない。</li> </ul>

(参考) ウェブサイト記載「授業を行う先生へ」

- 本教材シリーズでは、善悪がはっきりしない状況や、つい見落とされがちな問題を積極的に取り上げ、リアリティのある物語として描いています。本教材をとおして、一人一人がいじめゲームのルールを変えるチェンジャーズとなってほしいという願いのもと制作をいたしました。
- 教材を見れば、子どもたちからは何か言いたいことが出てくるはず。子どもたちによる話し合いを中心に授業を進めてください。話し合いの時間をできるだけ多くとれるように、短めの尺の中で問題点を具体的に描いています。すぐに答えが出ないような難問についてねばりよく話し合いながら、他者への想像力を養ってほしいです。
- 授業中は、子どもの話を丁寧に聞いたり、もやもやに共感したりする時間を大切にしてほしいです。「こうすべき」という結論を急がず、本音が出されることや、多様な意見が出されること、少数派の意見を丁寧に聞くことなどを大事にしてほしいです。
- オープンエンドで終わることを想定していますが、「本時では多様な考えが出されてよかった」というだけでなく、「これから自分(たち)には何ができるだろうか」と今後の生活につながるような終末を目指したいと考えています。授業時間内に1つの結論を出す必要はなく、これからチェンジャーズになるためのきっかけを掴んでもらいたいと思っています。

- ・ モデル指導案を掲載しておりますが、クラスや子どもたちの実態に合わせ話し合いが深まるよう、自由に柔軟に授業を展開してください。1つの教材の中に、複数の問題が描かれており、主人公以外の視点から議論をすることが可能な教材もあります。道徳科、特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科等でご活用いただければ幸いです。